

在スロバキア日本国大使館

政治・経済月報（2014年2月）

目次

内政

- ◆大統領選挙候補者の支持率調査 2
- ◆コトレバ・バンスカー・ビストリツァ県知事と当地ハンガリー大使の会見 4

外交

- ◆ルーマニア外相のスロバキア訪問 5
- ◆ライチャーク外相とホジャイ・コソボ外相との会談 5
- ◆チェコ首相の公式訪問 6
- ◆大統領他の訪独 6
- ◆チェコ外相の訪問 7

社会

- ◆汚職に関する欧州委員会の調査レポート 8

経済

- ◆財政赤字抑制に関する政府目標の達成に不確定要素 10
- ◆2014年のマクロ経済予測 10
- ◆2013年貿易統計 11
- ◆2013年経済成長率 12
- ◆税収の状況 13
- ◆主要経済指標：2014年1月 13

内政

◆大統領選挙候補者の支持率調査（12日付各紙）

12日付各紙は、本年3月に実施予定の大統領選挙候補者の支持率調査について報じている。概要は以下のとおり。

1. 第1回投票（3月15日）における投票先（世論調査機関 Focus 調べ、以下同）

- (1) ロベルト・フィツォ（首相：Smer-SD）：38.0%
- (2) アンドレイ・キスカ（無所属）：17.3%
- (3) ラドスラフ・プロハーツカ（無所属）：10.8%
- (4) ミラン・クニャシュコ（無所属）：9.5%
- (5) パヴォル・フルショウスキー（KDH）：9.3%
- (6) ジュラ・バルドシュ（SMK）：5.6%
- (7) ヤーン・チャルノグルスキー（無所属）：3.7%
- (8) ヘレナ・メゼンスカー（OLaNO）：2.5%

2. 主な候補者の支持者の傾向

- (1) フィツォ候補（首相：Smer-SD）
 - ・初めて投票する若い有権者からの支持は、最も少ない。
 - ・年金生活者及び中等教育修了者から、より多くの支持を得ている。
 - ・プレシヨウ県及びトレンチーン県で、最も多くの支持を得ている。
 - ・全ての有権者層から一定の支持を得ている。
- (2) キスカ候補（無所属）
 - ・男性よりも女性から、より多くの支持を得ている。
 - ・支持者の3分の2が、少なくとも大学入学資格を有している。
 - ・主に、プレシヨウ県、バンスカー・ビストリツァ県、ブラチスラバ県で支持を得ている。
 - ・反既成政党システム的な態度を有する無党派層、「普通の人々（OLaNO）」の支持者の多く、また Smer-SD 支持層の一部からも支持を得ている。
- (3) プロハーツカ候補（無所属）
 - ・若い有権者から多くの支持を得ている。
 - ・支持者の4分の3が、少なくとも大学入学資格を有している。
 - ・トレンチーン県及びジリナ県で、多くの支持を得ている。

・主に、「新たな多数派 (Nova)」及び「自由と連帯 (SaS)」の支持層から支持を得ている。

(4) クニャシュコ候補 (無所属)

- ・支持者の3分の2は44歳以下である。
- ・バルドシュ候補に次いで、スロバキア系以外の民族的少数派からの支持が多い。
- ・支持者の半分以上が、西スロバキアに集中している。
- ・スロバキア民主キリスト教連合 (SDKU) の支持層から最も多くの支持を得ているが、キリスト教民主運動 (KDH) 及び SaS の支持層からも多くの支持を得ている。

(5) フルショウスキー候補 (KDH)

- ・支持者の3分の2は女性で、44%が年金生活者である。
- ・支持者の多くが低所得者層である。
- ・以上が、人口2000人以下の小規模自治体に居住している。

(6) バルドシュ候補 (ハンガリー人共同党 : SMK)

- ・ハンガリー系有権者の97%から支持を得ている。
- ・支持者の3分の1が年金生活者である。
- ・支持者のほぼ半数が、最も小規模な自治体に居住している。
- ・支持者の半数が SMK の支持層であり、3分の1が「架け橋 (Most-Hid)」の支持層である。

3. 決選投票 (3月29日) における投票先

- (1) フィツォ候補 : 46.3% — キスカ候補 : 53.7%
- (2) フィツォ候補 : 52.3% — プロハーツカ候補 : 47.7%
- (3) フィツォ候補 : 58.1% — クニャシュコ候補 : 41.9%
- (4) フィツォ候補 : 58.6% — フルショウスキー候補 : 41.4%

今回の調査結果は、フィツォ候補の対抗馬として最も有力なキスカ候補が決選投票に進んだ場合、フィツォ候補に勝利する可能性を示すものとなった。キスカ候補の支持者は多彩であるが、最も多いのは、無党派層及び、政党組織を持たない市民政治グループ「普通の人々」の支持層である。これらの有権者は、既成の政党システムに不満と反発を抱き、既成政党の支持を受ける候補者への投票をためらう人々であると考えられる (当館注 : 有力な無所属候補のうち、キスカ氏以外は、かつて政党に属していたか、国会議員による推薦を受けている)。

◆コトレバ・バンスカー・ビストリツァ県知事と当地ハンガリー大使の会見

20日、極右政党の党首として知られるコトレバ・バンスカー・ビストリツァ県知事と駐スロバキア・ハンガリー大使が会見を行い、公表された会見内容がメディア等で問題視されることとなった。

1. バンスカー・ビストリツァ県プレスリリース

20日、コトレバ・バンスカー・ビストリツァ県知事は、県庁にバログ・駐スロバキア・ハンガリー大使を迎えた。公式会談の主要テーマは、国境を跨いだ協力の可能性であった。両者は、ハンガリーのスロバキア国境隣接地域及びバンスカー・ビストリツァ県が、共に最も貧しく、また失業率の最も高い地域に属する事実に触れ、まさにこの分野での支援が必要である旨確認した。両者はまた、増加しつつあるジプシー犯罪 (ciganska kriminalita) を根本問題の一つとみなし、これを扱う準備中の会合に関する協議を行った。(当館注:「ジプシー」(cigan) という言葉は通常ロマ人に対する差別表現であるとみなされ、公的文書や主要メディアで使用されることはない。自治体のプレスリリースでこうした表現が使用されるのは極めて異例。)

2. 新聞報道：25日付「スメ」紙

コトレバ知事は、「人民党・我々のスロバキア」(コトレバ氏が党首を務める極右政党)のマーク入りのTシャツを着て、バログ・ハンガリー大使を迎えた。バンスカー・ビストリツァ県のプレスリリースによれば、両者は「増加しつつあるジプシー犯罪」を扱う予定の会合について協議したという。ハンガリー外務省はこれについて、受け入れがたいものとして距離を置いている。ハンガリー大使館のサボー首席参事官は、「バンスカー・ビストリツァ県によるプレスリリースは、虚偽及び極右の見解を反映した表現を伝えている」と述べ、会談の趣旨を歪めて解釈したものとみなしている。

ハンガリー大使とのコトレバ知事との会談は、ハンガリー国境に隣接する各県の県知事を大使が表敬訪問するプログラムの一環として行われた。ハンガリー大使館は、コトレバ知事と異なり、ロマ系マイノリティを(「ジプシー」ではなく)「ロマ系コミュニティ」と呼んでいると主張している。

20日の会談は、ハンガリー国内でも反応を引き起こした。情報サイト「444.hu」によれば、バログ大使は21日、「ジプシー犯罪」というコンセプトはスロバキアにおいてはハンガリーとは異なった形で評価されている、なぜならば、スロバキアでは首相や内相もそれを用いていたからであると述べたという。

ハンガリーの野党・社会党のメシュテルハージ党首は、大使がそのような見解の持ち主と会談したのは受け入れがたい、と述べた。

サボー参事官は「スメ」紙に対し、「大使と県知事は、スロバキア・ハンガリーの国境隣接地域における諸問題及び、両国の協力の可能性について協議した。会談では、EU議長国としてのハンガリーの優先課題の一つである、ロマ系コミュニティの社会統合も話題に上った」と述べた。

外交

◆ルーマニア外相のスロバキア訪問

4日、ライチャーク副首相兼外務・欧州問題相は、スロバキア訪問中のコルラツェアン・ルーマニア外相と会談を行った。ライチャーク外相は会談後の記者会見で、「スロバキア共和国はルーマニアのシェンゲン加盟を明確に支持する。我々の見解は、ルーマニアが全ての技術的条件を満たしている以上、EUは自らの義務を果たすべきあり、このテーマを政治争点化すべきでなく、また追加条件を設けるべきでない、というものである」と述べた。両外相は会談において、両国間の経済関係の強化及びそのための具体策、ドナウ流域戦略、国際的制度の枠内における相互協力、EU拡大、欧州議会選挙その他の外交問題について協議した。

◆ライチャーク外相とホジャイ・コソボ外相との会談

10日、ライチャーク副首相兼外務・欧州問題相は、EU外務理事会への出席に先立ち、ブリュッセルにおいてホジャイ・プリシュティナ行政府外交部代表（当館注：スロバキア政府はコソボの独立を承認していないため、このような名称を用いる）との会談を行った。

ライチャーク外相はホジャイ代表より、セルビア政府とプリシュティナ行政府がブリュッセルにおいて結んだ合意内容の履行状況についての説明を受けた。ライチャーク外相はこれに関連し、ベオグラード・プリシュティナ関係の正常化の進展は、欧州統合プロセスにおける西バルカン地域全体の前進にとって、極めて重要な前提条件である旨述べた。

ホジャイ代表はライチャーク外相に対し、プリシュティナ行政府は、セルビア政府との対話の結果成立した全ての合意内容につき、十分に履行していく決意である旨明言した。プリシュティナ行政府にとっての喫緊の課題は、欧州安定化・連合協定に関

する交渉の完結である。

ライチャーク外相は、コソボが現在 EU と協議中のビザ自由化及び法の支配について、具体的な改革を受け入れてきたスロバキアの経験を生かすことが可能である旨述べた。ホジャイ代表は、スロバキア政府の支援に対する感謝及び、スロバキアとの対話と政府間協力に対するプリシュティナ行政府の関心を表明した。

◆チェコ首相の公式訪問

13日、ソボトカ・チェコ首相は、就任後初の外国公式訪問としてスロバキアを訪問した。

ソボトカ首相は、就任後初の外国公式訪問として、これまでの慣習に従いスロバキアを訪問、フィツォ首相と会談を行った。フィツォ首相はソボトカ首相に対し、両国の関係は、かつて連邦を形成していた時代よりも本質的に良好であり、EU 及び中欧地域における一連の共通利害は、両国をさらに近づけつつある旨述べた。ソボトカ首相はこれに答えて、両国関係は非常に良好であり、両国間に否定的なテーマは1つも存在しない旨述べた。両首相は、2012年に行われた両国共同閣僚会議の成功を評価した。フィツォ首相は、同会議を、本年スロバキアにおいて開催する希望を述べた。

両首相は、最も重要な共通課題として、交通インフラの整備を挙げた。ソボトカ首相は、現在、両国を結ぶ高速道路が一本しか存在しないは遺憾であり、労働市場の結合や企業間協力を促進するためにも、ズリーン県（チェコ）ートレンチーン県（スロバキア）及びモラウスコスリエスコ県（チェコ）ージリナ県（スロバキア）間の高速接続を確立することが急がれる旨述べた。両首相は、防衛分野における協力についても見解を一致させた。フィツォ首相は、防衛分野における協力により、経費の無駄を抑え、軍備の効率化が可能になる旨述べた。ソボトカ首相は3点目の協力課題として、V4またはEUにおけるチェコ・スロバキア両国の緊密な連携を挙げ、両国が共同歩調を取るべき中核的利害の例として、EUの将来的なエネルギー政策に言及した。

◆大統領他の訪独

26日、ガシュパロヴィチ大統領はライチャーク副首相兼外務・欧州問題相、カジミール財務相、マラティンスキー経済相と共に訪独し、ガウク独大統領他と会談を行った。

ガシュパロヴィチ大統領は、ベルリンにてガウク独大統領と会談を行った。両大統領は、両国間の経済的、文化的協力及び欧州政策について話し合った。ガシュパロヴ

イチ大統領は会談後、「スロバキアは、ウクライナに救いの手をさしのべるために、全てのことを行わなければならない」との声明を發した。同大統領はまた、ウクライナへの支援は、ウクライナが欧州に属するという成果を伴うべきであり、そのことによって正当化されるべきである旨付け加えた。スロバキアからウクライナへの可能な援助策として、ガシュパロヴィチ大統領は慈善事業や医療支援、また将来的な財政支援に言及した。

ライチャーク副首相兼外務・欧州問題相は、ベルリンにてシュタインマイヤー独外相との会談を行った。会談の主要なテーマは、ウクライナ情勢であった。ライチャーク外相は、ウクライナは現在、正統性を有する政府を成立させ、自由な大統領選挙及び国会選挙を実現する重大な課題を負っている旨強調した。両外相はまた、共通の外交・安全保障問題として、他の東方パートナーシップ諸国の状況についても協議した。

カジミール財務相は、ショイブレ独財務相との会談を行った。両財務相は会談において、「ベイルイン (bail in) 規則」(銀行救済に際しての損失負担を、株主、債権保有者、大口預金者が行うとする規則) の導入や、銀行清算基金のコスト分割といった EU レベルの重要案件について、ほぼ共通の見解を有している点を確認した。カジミール財務相はショイブレ財務相に対し、スロバキア政府の租税回避の取り組みの成功と、その結果としての税収増について説明した。カジミール財務相はまた、25日に欧州委員会が公表した経済予測において、スロバキアの今年の財政赤字が GDP 比 2.5% と見積もられている点に言及した。ショイブレ財務相はこれを受け、スロバキアが経済分野で達成した成果や、昨年導入されたレシートくじ制度に関心を示した。

◆チェコ外相の訪問

25日、ザオラーレク・チェコ外相は当地を訪問し、ガシュパロヴィチ大統領及びライチャーク副首相兼外務・欧州問題相と会談を行った。

ザオラーレク外相はガシュパロヴィチ大統領に対し、チェコの新政権はスロバキアとの協力関係をこれまで通り継続し、両国共同で外交問題に対処していく意思がある旨述べた。ガシュパロヴィチ大統領はザオラーレク外相に対し、両国にとって V4 の枠組みでの協力は非常に重要である、また、V4 のパートナーになることへの他の中欧諸国の関心が示すように、V4 における地域協力は欧州全体にとっても重要である旨述べた。両者は、EU 政策に対する国民の認識の問題について話合った。ザオラーレク外相は、チェコ社会の欧州問題に対する姿勢は、次の欧州議会選挙において試されるが、スロバキアの EU との関係は注目に値する旨述べた。ガシュパロヴィチ大統領は、次回

の欧州議会選挙は、投票率の点でも、また候補者の質の点でも、これまでのものに比べてより重視されるべきである旨述べた。

外相会談のテーマは、政治、経済その他の領域における協力関係の強化、経済外交における経験共有の促進、ビザ・領事関係手続きなど第三国における両国民支援に関する緊密な連携の促進であった。両外相は、5月の欧州議会選挙実施の前に、第二回目の両国政府間の閣僚会議の開催準備を行う点を確認した。ライチャーク外相は会談後の共同記者会見において、チェコはスロバキアにとって非常に頼りになる、責任のあるパートナーであり、両国のV4、EU及びNATOの枠内における協力は、双方にとって有益である旨述べた。

社会

◆汚職に関する欧州委員会の調査レポート（4日付各紙）

4日付各紙は、欧州委員会が3日に公表した汚職に関する調査レポート（EU Anti-Corruption Report）について以下のように報じた。

1. 調査結果

EU各国の市民を対象に行われた汚職に関する意識調査では、スロバキアにおける以下の傾向が明らかとなった。

- 汚職は、どの程度国内に蔓延しているか？
非常に蔓延している：46%（EU平均35%）
ある程度蔓延している：44%（同41%）
- 汚職は、自分の日常生活に影響を与えているか？
与えている：40%（EU平均26%）
与えていない：55%（同70%）
- スロバキアでの事業経営に際し、汚職を問題視しているか？
非常に問題視している：66%（EU平均43%）
- スロバキアでの事業経営に際し、恩顧主義や縁故主義を問題視しているか？
非常に問題視している：53%（EU平均41%）
- 贈収賄や個人的利益のための権力濫用は、どの部門で蔓延しているか？
医療部門：64%（EU平均33%）
司法部門：56%（同23%）

政党：51%（同59%）

中央及び地方政治家：49%（同56%）

警察、関税当局：48%（同36%）

公的入札に関わる公務員：44%（同45%）

検査部門（安全、建築、労務、食品衛生等）：41%（同35%）

2. 調査結果に関する評価

スロバキアにおいて、汚職の度合いが最も高いと見なされたのは、**公的医療部門**である。これについて社会学者のファルチャン氏は、人々がより良い待遇を求めて医療関係者に何らかの物を贈る慣習は昔から存在しており、根深い問題であると指摘する。保健省の広報担当官は、市民に対して、公的医療関係者への贈賄はそれ自体犯罪であること、また医療関係者側から何らかの働きかけがあった場合には、その具体的内容を報告することを呼びかけている、としている。

医療部門に次いで汚職が蔓延していると評価されたのは、**司法部門**であった。欧州委員会はレポートの中で、裁判官に関する法的規定の不十分さと独立性の欠如を最大の問題と見なし、司法の独立の強化と裁判所長官及び副長官の罷免基準の明確化を提案している。法務省の広報担当官は、同レポートの客観性について疑問を示しつつも、多くの市民がスロバキアの司法を信用していないという事実については、重大な問題と見なしている旨述べた。

調査の結果、**公共調達部門**の汚職についても、スロバキア国民の厳しい評価が示された。調査においては、事業者の57%が、3年の間に汚職行為によって入札から排除された経験がある、と答えた。これについて公共調達局の広報担当官は、個別の公共調達に関する情報公開等、汚職を抑制するための制度改正に取り組んでいくと述べた。

政治汚職に関して、欧州委員会はスロバキアに対し、政党の資金調達の透明性を拡大することを提案した。また、EU基金の流用防止のためのチェック機能強化を奨励している。

経済

◆財政赤字抑制に関する政府目標の達成に不確定要素（3日付「スメ」）

欧州統計局（Eurostat）は、スロバキア政府が2013年の歳入として計上した以

下の項目について、以下の見解を示している。

- 年金第二部門（民間運営）から同第一部門（国家運営）への一部移転により生じた収入約 2 億ユーロについて、歳入として認めない。
- 備蓄原油の売却による収入約 4 億 7 万 1 0 0 0 ユーロについて、歳入として扱うことを疑問視する。

他方、スロバキア政府が、国が 5 1 % の株式を保有するガス企業 SPP の配当金約 3 億 5 0 0 0 万ユーロを 2 0 1 4 年の歳入に組み入れたのに対し、欧州統計局はこれを 2 0 1 3 年の歳入として扱うべきとしている。

フィツォ首相は、2 0 1 3 年の財政赤字を GDP 比 3 % 以下に抑制することを政権公約として掲げ、繰り返しこれに言及してきたが、欧州統計局の立場はこの目標の達成に陰を投げかけるものである。備蓄原油の売却金が歳入と認められない場合、上記目標を達成するためには、欧州統計局の見解に従って、SPP の配当金を 2 0 1 3 年の歳入として扱う必要が生じる。ただしこれは、既に国会で承認済みの 2 0 1 4 年予算に大きな変更が加えられることを意味する。

◆ 2 0 1 4 年のマクロ経済予測

6 日、スロバキア財務省 2 0 1 4 年のマクロ経済予測を公表した。概要は以下のとおり。

1. 経済成長率

今年のスロバキアの経済成長率は、以下の理由により、2. 3 % に達すると予測される。

- ユーロ圏経済の漸進的な回復による輸出増加
- 現時点における工業生産の急速な伸び
- 国内需要の緩やかな回復
- 比較的抑制された物価上昇による家庭消費の拡大
- 総体的な国内投資の加速的拡大（特に、自動車産業における拡張的投資計画及び高速道路の建設による）

一方で、企業融資のこれまでの停滞は、今年の投資活動にもマイナスの影響を及ぼす。

来年以降、経済成長は次第に加速していくと予想される。需要拡大に支えられた輸出増加が、経済活性化の主要な要因となりうる。

2. 労働市場

今年は、労働市場の再生が開始される。昨年第4四半期における求人の増加は、労働市場が回復傾向に転じたことを示している。経済成長は、就業率の緩やかな拡大に反映されると予想される。雇用拡大が見込まれるのは、主に工業と市場サービス分野である。これに伴い、失業率は低下する。

3. 賃金伸び率

低インフレ率と労働市場の回復の結果、今年の実質賃金伸び率は加速する。来年以降は、労働生産性の向上に従い、実質賃金伸び率は漸進的に2%にまで上昇する見込みである。産業別では、工業と市場サービス分野において最大の伸びが予測される一方、公共サービスと建設業では比較的小さな伸びにとどまると予測される。

他方で、今年の名目賃金伸び率は、去年と比べて鈍化する見込みである。また、一部企業が賃金交渉において物価上昇率の低さを考慮した場合、賃金上昇の再調整が遅れる可能性もある。

4. 物価上昇率

今年の上昇率は減速し、消費者物価指数は0.8%程度となると予測される。特に第1四半期に物価上昇が抑制される可能性が高く、この時期には物価水準が下落する（デフレが引き起こされる）リスクさえも存在する。その後の時期には、物価は漸進的に上昇していくと予想される。物価上昇率の減速には、以下の要因が作用する。

- 一般家庭によるエネルギー支出節減、特に電力価格の低下
- 国内及び国外における農業生産物の供給過剰が原因の、昨年後半より継続する食料品価格の低下

今年上半期のインフレは低水準にとどまる。個人消費及び名目賃金の伸びが継続的に低いレベルにとどまっていることから、今年上半期についても、急速なインフレ拡大への誘因は存在しない。インフレの加速が期待できるのは、下半期以降である。

◆ 2013年貿易統計 (7日付「スメ」電子版)

7日付「スメ」紙電子版は、スロバキア統計局が公表した2013年の貿易統計について報じている。

2013年のスロバキアの総輸出額は前年比3.7%増の約645億ユーロ、総輸入額は同2.5%増の約600億ユーロであり、貿易黒字額はそれまでの最高値であ

った2012年の35.6億ユーロを更に上回る約44.3億ユーロとなった。

月毎の貿易を見た場合、2013年12月は輸出が613万ユーロ、輸入が800万ユーロと、2011年12月以来、2年ぶりに赤字を記録したが、UniCredit Bankのアナリスト、コルシュニャーク氏は「12月はクリスマスに関連した輸入が増えると共に産業部門の生産が減少する季節であり、一般的に貿易黒字が減少あるいは赤字が増加する季節である」と述べ、12月の貿易赤字が一時的なものとしている。

他方、同氏は今後のスロバキア貿易の傾向につき「国外の経済状況改善により輸出は伸びるが、回復しつつある国内需要がそれを上回るペースの輸入増をもたらす」として、全体として徐々に黒字が縮小していくと予想している。

◆2013年経済成長率（15日付「スメ」）

スロバキア統計局が公表した速報値によると、2013年のスロバキアの実質経済成長率は0.9%であった。特に2013年第4四半期には前年同期比1.5%という、過去2年間で最も高い成長率を記録した。EUでスロバキアより高い成長を示したのは、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、リトアニア、英国等、7カ国である。

年末にかけて特に好調だったのが建設業であり、温暖な気候も影響して、12月には前年同期比10%と2008年12月以来となる高い伸び率を示した。また、鉱工業も同様に10%以上の成長を記録した。スロバキア経済の牽引役は引き続き輸出であるが、2013年末には輸入も増加している。ただし、CSOB銀行のアナリストであるガーブリシュ氏は「この輸入増が消費増を意味しているのかは現時点では明らかではない」と述べている。

比較的低水準の経済成長率に対し、1年以上減少を続けていた国内の就業率は、2013年第3四半期から0.2%、0.3%と2期続けて前期比プラスの伸び率を示している。スロバキア中央銀行によると、第3四半期から第4四半期にかけて6000人分の雇用が創出されたということである。他方、2013年前半はマイナスであったため、前年同期比で見た場合、就業率の伸び率はゼロである。2014年の経済成長率は約2%と予想されているが、この場合、就業率の大きな改善は見込まれないとされている。

◆税収の状況

財務省の公表した税収予想によれば、昨年11月時点の予想税収額と比較して、2014年の税収は1億9000万ユーロの増加、2015年は1億3000万ユーロ

の増加となっている。増加分の大部分を占めているのが付加価値税であるが、タバコ、燃料の消費税及び法人税からの税収も増加が見込まれている。

税収予想を改善させた大きな要因は、昨年の税収、特に付加価値税の徴収が大きく増えたことにある。昨年の総税収額は、当初の予想よりも2億6000万ユーロ多い結果となった。付加価値税の徴収率（実際に徴収できた税金額と本来徴収できたはずの税金額の割合）は、2005年以降、悪化し続けたが、現在は5四半期連続で改善している。徴収率を考慮すると、最悪だった2012年第2四半期の「実質的な」付加価値税率（実際の徴収した税金額から算出した税率）は12.5%であったが、2013年第4四半期の実質的付加価値税率は13.7%に上昇している。

付加価値税の徴収が改善した理由として、財務当局は企業がきちんと申告するようになったこと、当局による検査の対象となる企業の選択における効率性が上がったことを挙げているが、1企業に対する1回の検査の規模が大きくなったことを指摘する者もいる。カジミール財務相は、付加価値税徴収の改善は継続的な傾向であると確信している旨述べている。

◆主要経済指標：2014年1月

※出典：Štatistický úrad SR 及び EUrostat。為替レートについては Interbank Rate を使用 (<http://www.oanda.com/>)

消費者物価指数 （対前年同月比）

月	総合	食料品価格	エネルギー価格	運輸・交通価格
1	0.0	0.9	-0.9	-1.3

失業率

月	スロバキア	ユーロ圏 17 カ国	EU27 カ国
1	13.6	12.0	10.8

為替レート

月	1ユーロ/円
1	141.8

外国貿易 (単位:100万ユーロ)

月	輸出	輸入
1	5,228.6	4,904.3

鉱工業生産指数 (対前年同月比)

月	鉱工業総合	自動車工業	電子機器工業
1	112.9	137.0	110.8

景況感 (1990年～2013年の平均値=100)

月	スロバキア	ユーロ圏 17 カ国
1	98.1	101.0